

商店街をもっと見る。もっと知る。

京都商店街新聞

2024.3 | Vol.9

KYOTO SHOPPING DISTRICT PRESS

発行 | 京都府商店街振興組合連合会 〒600-8009 京都市下京区四条通室町東入函谷鉾町 78 (京都経済センター 3 階) TEL (075)-342-0301 FAX (075)-342-0302 URL <https://syouren.or.jp>

CONTENTS

インタビュー：ラクセーヌ商店会 | 新大宮商店街：親子で商店街を楽しめる“マチゴトずかん” | 馬堀西部商店会：地域の活気を創造する取り組み | 墨染ショッピング街：やさしさとワクワクが溢れる独自の取り組み | 商店街川柳 | and more...



商店会の発展が 地域の発展になる

ラクセーヌ商店会
まつもと いさお
会長 松本 功 さん

洛西ニュータウンの中心にあるラクセーヌ商店会の松本会長に商店会をふくむ地域全体の魅力、さらには商店会で行っておられる取り組みや今後の展望について語っていただきました。

商店会の店舗の頑張りをサポート

2023 年 6 月からラクセーヌ商店会の会長として活動しています。主な仕事としては、今回のような外部取材を受けるといった渉外活動、また商店会での活動の最終決断をする役割を担っています。正直なところ、会長は商店会の各店舗が自発的に動いていく頑張りをサポートする黒子（くろこ）のような存在だと思っています。各店舗で自分の店の商売をどんどん発展させてもらうことが、商店会の発展、ひいては洛西ニュータウン全体の地域活性化につながるのではないかと考えています。昨日の自分たちより今日の自分たちが少しずつでも進化していったら、この地域のためになるんじゃないかなと思っています。

40 周年そしてリニューアルオープンへ

40 周年を迎え、昨年度末に 5 か月の休み期間を経て 2023 年 12 月 15 日リニューアルオープンしました。照明も明るくなり、改装された店舗もあり、さらにお買い物がいやすくなりました。商店会の活動としては、ラクセーヌ全体で集客する事業イベントを行っています。地域のお客様を大切にしたいので、皆様に喜んでもらえる活動を積

極的に行っています。恒例の桜まつりや夏まつりといったイベントだけでなく、新たなイベントにも挑戦しています。販売促進活動としては、ポイントカードやラクセーヌで使えるお得な金券販売などを行い、お客様に還元しています。新たなお客様もリピーターのお客様にも、ぜひラクセーヌでお買い物していただきたいと思っています。

さらに地域に寄り添う商店会へ

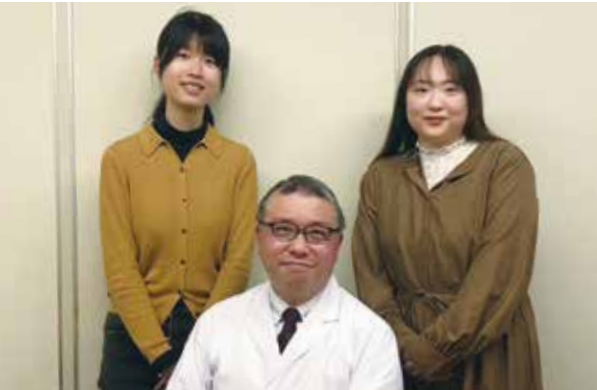
これからも、地域の方とのコミュニケーションを図っていくことが一番だと思っています。前述の桜まつりや、夏まつりなどは毎年継続していくことで、地域の皆様の記憶に残るような懐かしさを味わえるようなイベントにしていきたいです。ラクセーヌはニュータウンの中心的な場所として、コンパクトに買い物ができる地域密着型の商店会です。銀行や郵便局など生活に必要なものがほぼ全てとまっている点が魅力です。近いところでは、医療モールの設置が決定しており、地域の方の健康を守る医療の窓口としての役割も果たせるように取り組んでいきたいです。またフードコートには新たに 2 店舗が入る予定になっており、地元の方々がゆっくりと長時間憩えるような場になればと思っています。

世代を超えて、みんなが安心して暮らせる一助になればと考えています。商店会の発展が地域の発展になるという強い信念を持って、これからも上を向いて一歩一歩進んでいきたいと思っています。

インタビューを終えて

ラクセーヌ商店会を訪れて、地域の方々が自然と集まって談笑されている憩いの場所となっていることがとても印象的でした。松本会長が営まれている松屋さんのお菓子をいただきましたが、丁寧な手仕事でそれぞれの素材の良さを生かされた大変おいしいお菓子でした。各店舗の魅力を生かし、商店会全体、さらには地域を発展させようとしている会長の想いと通じるものがあるように感じました。ホッと心が暖まるラクセーヌ商店会にまた来たいと思いました。

文責 / 平安女学院大学 国際観光学部 井成和実 山内伊紀 (山本研究室)



● ラクセーヌ商店会
〒610-1143 京都市西京区大原野東境谷町 2 丁目 5-8
☎ 075・331・3715
URL: <https://rakuseinu.com>

マップ出所：京都府地図 / 京都府商店街振興組合連合会 HP
商店街マップより URL: https://syouren.or.jp/files/P68_P69_04pdf



親子で商店街を楽しめる “マチゴトずかん”って!?

新大宮商店街

京都市北区にある新大宮商店街で、昨年 12 月 1 か月にわたり、小学生を対象に展開された「マチゴトずかん」。その企画及び実行に携われた新大宮商店街振興組合理事の平元俊一さんにお話を聞きました。

「マチゴトずかん」について

「マチゴトずかん」のリーフレットに書いてある地図とヒントをもとに、子どもたちが保護者と一緒に商店街を歩きまわり、お店とそこにある「おたから」を見つけてカードをゲットするというゲームです。カードは 15 種類あり、全て集めるとオリジナルグッズと交換してもらえるというものです。

ゲームを通して、普段は入ることのないお店に行き、お客様になつてもらえたり、子どもたちがお店を知ること、安心・安全につながったりすることも目的としています。親御さんも楽しんでもらっていたようで、子どもたちに「ここ行ったら出し巻買ってきて」とミッションを与えるなど面白い事例もありました。参加された商店にとっても、普段は来ない子どもたちがやってきて、話ができて嬉しかったと好評でした。また、ゲームのカードが足りなくなった際には、新しいカードの制作を商店のみんなが協力して作ったりと一体感も高まりました。

開催期間は、人出の偏りを避けて 1 か月の期間を設けました。景品としてお渡しできた数から、少なくとも 200 人程度の子どもたちと、付き添いの保護者の参加があったと思います。

振興組合が主催ではない、商店街の店舗に協力を得たイベント

実は、商店街振興組合はゲームの主催者ではありません。民間学童保育を手掛けるミライブラリから、まちごと子どもたちが放課後に遊べる場所にしたい!子どもたちが生き生きと過ごせる、安全で住みやすいまちをつくりたい!という趣旨で提案され、その想いに賛同した近隣の事業者が立ち上げた「マチゴトアフタースクール」という企画の第 5 回目です。

「マチゴトアフタースクール」の最初の 2 回は、謎解きをしな

がらまちを歩く「なぞときまちさんぽ」でした。西陣地域で行われましたが、子どもたちにとっては広域すぎて、車が通る大通りも入っていたので、安全上の懸念がありました。そんな時、歩道もあって子どもたちが安全に歩ける新大宮商店街でやってみよう!ということになったんです。以降、3 回目の「まちごとモンスター」、4 回目の「マチゴトクエスト」そして、5 回目の「マチゴトずかん」と、新大宮商店街を会場に企画しました。教育委員会にも話を通して了解を得た上で、近隣の小学校にリーフレットを配り案内しています。

5 回の中で 1 番反響があったのが「まちごとモンスター」です。商店街のお店の目玉商品やサービスを、子どもたちが名前を付けてモンスター化したものを、ミライブラリの村上代表がイラストにしたものです。各商店にいるモンスターを探して見つけたら、モンスターのカードがもらえるのですが、そのカードで対戦できるようにもしました。ただカードを集めるだけではなく、対戦できたり、謎解きがあったりなど複合的なゲーム感覚があったほうが、子どもたちも探求心がわくだろうと、毎回みんなアイデアをひねり出しています。

また、「マチゴトアフタースクール」の資金は、事業者の出し合いですが、必要なのはリーフレットの作成とゲームのゴールを達成したらもらえるノートや下敷きなどのオリジナルグッズ製作費ぐらいで、事業者にとっては大きな負担にはなっていません。カードも手作り。そのほうが子どもたちが喜んでくれるので、頑張って作成しています。企画は年に 2 度のペースで、開催時期もいろいろなタイミングと試行錯誤しながらやっています。

新大宮商店街について

現在の新大宮商店街は、振興組合に加盟している割合が商店街全体の 6 割ほどになってきました。このイベントに関しては、組合加盟店だけに固執せず、子どもたちと一緒に楽しんでいただけたような商店を中心に、商店街に含まれていない近隣の商店にも協力をいただいています。

子どもたちが楽しいと思える場所であれば、そこで子育てをしたいという親御さんが増え、商売にも繋がっていくと考えています。

新大宮商店街は、先輩方たちが作り上げられてきたものののおかげで、まだ商店街らしい雰囲気が残っていますが、将来に向けては不安があります。事業者ができることをやっていかないと、お店をする人がなくなっていく、住民も減っていくという危機感があります。この企画に関わっている事業者や商店の皆さんは、今後を見据えた未来への投資になるだろうと、同じ感覚を持っているんだと思います。

今後の取り組みについて

「マチゴトアフタースクール」の企画するイベントは、ゲームに出てくるお店がいつも同じだと子どもたちも飽きてしまうのではと、毎回参加商店の 3 分の 1 を入れ替えることにしています。ですが、単独の商店街ではお店も限られてきてしまいます。そこで、複数の商店街が連携をして実施できないかと考えています。京都市内の商店街で同じような企画があれば、行ってみたいと思うかもしれないですし、せっかく行ったら何か買って帰ろう、という購買意欲にも繋がるのではないかと考えています。一地域だけではなく京都府全体の循環に広がっていくようなコンテンツに育てていくことができたり、賛同する事業者が増えれば、レアなカードが作れたり、関連商品がつくれたり……。というような展開になっていけば面白いと思っています。

この企画が、これからどのような発展をしていくのか楽しみです。

問い合わせ

● after school ミライブラリ西陣北校
☎ 075・406・5889



サンガスタジアムの設立を地域活性化のチャンスと捉え、商店会を挙げて京都サンガを応援し、盛り上げをみせている馬堀西部商店会。新規開業のお店が増えており、日々活気にあふれています。今回は会長を務める北村さんに、商店会の特徴や、地域への思い、加盟店増加の秘訣などについてお聞きしました。

商店会の特徴
馬堀西部商店会は亀岡市のJR馬堀駅から徒歩約3分、加盟店が20店ほどの商店街で、地域に密着した商店会です。アーケード通りにたくさんのお店が立ち並ぶ商店街に比べると規模は小さいですが、熱意とやる気を持って、色々なことにチャレンジする商店会だと考えています。

加盟店増加の秘訣
― 商店会活動を自分ごととして考える
会長になって2年目になりますが、過去に3回経験があり、現在4回目の会長職になります。私は「会長」を重要な立場であると考えていて、とても重きを置いています。なぜなら、商店会でお店を経営し生計を立てているので、活性化への努力をせず、寂れた商店会になってしまったら、集客力は低下し、各々の生活が脅かされかねないからです。そのため、加盟店さんに対しても、「商店会をみんなで一緒に活性化させない」と

生活がままならなくなってしまうよ」とお伝えしています。みんなの思いを1つにして前向きに進めることは難しいですが、活性化のためにはそれが重要なことであると感じています。この思いをもって皆さんに協力していただけたことで、加盟店増加につながったのではないかと考えています。

― 積み重ねてきた思いとそのイメージが継続的な活性化へ
その他の理由として、加盟店さんと一緒にこの地域のことを思って取り組んできた積み重ねがあったからだと考えます。時代によってやることは変わってくとは思いますが、そのやってきた結果により「今」があります。“亀岡一活気のある商店街”、馬堀西部商店会は「何かいろいろやってはるんやね」、「えらいにぎやかなお祭りやってはるんやね」とよく言っていたいていますが、そのようなイメージを持っていただいていることがとても重要だと考えています。このため、もし空き店舗ができて、出店を考えている人が来られたときに「商店会に有線が流れていて、雑草がなくきれいで、活気がある。やっぱり噂通り活気があるんやな」と思っていただけで、空き店舗に入っていただけではないかと考えています。他にも商店会のお祭りでは、活気を創造するんだという意地をもって取り組んできました。おかげさまで昨年の“馬堀キッチンフェスティバル”では様々なキッチンカーに来ていただき、多くのお客様にご来場いただきました。

現状の課題とこれからの思い
やはり大型店舗の勢いは凄く、大型店舗ではできないようなことをしたいと考えても、商店会の皆さんそれぞれの思いがある中で策を考えていくのが難しいことが課題であると考えます。方向性を決めて突っ走ることは大変ですが、皆さんと力をあわせ頑張って取り組んでいきたいです。また、亀岡に京都サンガが来たということで、もっとサンガを盛り上げていき、サンガで有名なまちにしていきたいです。亀岡に来て「いい街や、ここに住んでみたい」と思ってくれるようなまちを目指して、近くの商店街とタッグを組んで「馬堀」という地域の活気を創造していきたいと考えています。
地域に対する思いとサンガ愛、活性化させようとする強い志と心意気を感じました。商店会の活動で地域を盛り上げていきたいという対外的な思いに加えて、それが自分たちの商売や生活を支えているのだという対内的な帰属意識、そのどちらも大事にされていることが素晴らしいと思いました。商店会や地域のことをしっかりと自分ごととして考えることが重要であると分かりました。

文／藤田 直己

● 馬堀西部商店会
〒621-0823 京都府亀岡市篠町馬堀北垣内



京都市伏見区の墨染ショッピング街。学校、医療機関、飲食店など様々な業種が加入していて、毎日にぎやかな声が聞こえてきます。
今回、墨染ショッピング街会長の森本美津代さんと、副会長の植道宣之さんに商店街の魅力や会員増加の秘訣をお聞きしました。

墨染ショッピング街について

京阪本線「墨染駅」を中心に広がっている商店街です。現在65店舗が加盟しており、「安心 安全 明るいまちづくり」というキャッチフレーズのもと、様々な職種の方が一丸となって地域活性化に貢献しています。
加盟店の業種は多種多様で、飲食店や物販店に加え、病院、学校、美容室、建築関係とまさに「ゆりかごから墓場まで」です。周辺には墨染寺・藤森神社などの歴史的な神社仏閣もあり、歴史的情緒も感じられる商店街として地域に愛されています。

地域イベントや独自の取り組み

春には墨染寺の「さくらまつり」、夏は藤森神社の「藤森盆踊りフェスティバル」など、地元の自治連合会や行政と共に手を取り合って開催している地域イベントが多いのも、墨染ショッピング街の大きな特徴です。

また、独自の取り組みとして、7年間続けている商店街マップがあります。マップ作成の裏側には、会長の森本さんの「墨染ショッピング街の街路灯は、加盟店の会費と寄付金で維持管理されていることを広めて、地域の役に立っていることをぜひ認知してほしい」という熱い思いが込められています。

あたたかい人柄と広い心が生み出すチカラ

会員数が減少傾向にある商店街が多い中、墨染ショッピング街は加入数が増加しています。
その1番の秘訣は、やはり「人柄」と「新しいものを積極的に取り入れる心の広さ」です。誰かが商店街でイベントを開催したいと言えば、全体でアイデアを出し合う。若い



人の「やりたい!」という声に耳を傾け、広い心で歓迎する。そんな若い人たちの行動力と、その思いを快く受け入れる大人たちがいるからこそ、活気のある商店街になるのだと感じました。

次世代へ残る商店街にするために

今後も若い人たちが墨染ショッピング街に集まり、地域がどんどん盛り上がることが夢だと語る森本さん。
「墨染にいて何か良いことがある」。そう思ってもらうためにも、柔軟な心とやさしき溢れる人柄で新しいものを受け入れ、次世代に残る商店街を目指していきたいとのことでした。
文／中村美南

● 墨染ショッピング街
〒612-0051 京都市伏見区墨染町
URL：https://sumizome-shopping.com

商店街川柳

日常のひとこまを川柳にしてみませんか？

商店街川柳の応募フォームはこちら▼

チラシよりプレミアム券 効果大 執行者ですん

閑古鳥 泣かない街の街作り 藤田さん

桜観て 肉屋の ロック 懐かしむ 元京大生さん

空き店舗 高校生なら どう使う？ 教頭ですけい いですか？ さん

桜咲く られしい 便り ご馳走だ ヒロシさん

掲載情報、編集メンバー、川柳、広告 大募集中です。

お問い合わせ先
■ 京都商店街新聞 編集部宛 E-mail / kyoto.shotengai.shinbun@gmail.com
■ 商店街川柳 応募フォーム URL / https://forms.gle/YJ9oGc4YArgPpgVX6

編集部宛フォームはこちら▼